

British Hills in 2005

英語・英語圏文化専攻 教員

北川宣子

専攻の一年生全員を対象とする福島県の British Hills での異文化体験学習も今年で6年目となり、今年度は6月5日、6日に実施しました。天候にも恵まれ、学生たちはたくさんの刺激を受けて来ました。ここで皆が受けたクラスを紹介していきましょう。



Baking scones in the kitchen!! 白石由季

When I went into the kitchen and put on an apron, I felt British. First, the teacher showed us how to make the scones. After that we also made scones. I enjoyed making them, especially choosing extra filling. I choose Orange peel, nuts and chocolate. I also enjoyed chatting and listening to music while making the scones, I cut out round shapes from the dough. Some of my friends cut out heart shapes. They were so pretty. We went outside and we tasted the scones that the cooking teacher made. With the scones we drank a cup of tea, that tea was very special. It was made from some kinds of berry. I tasted just one of my scones as soon as it was baked. It was especially tasty because I made it with my own hands!

I will never forget that taste and that experience. The scones made me so happy.



アロマセラピー 小泉香織

アロマセラピーがどこで始まったかご存知ですか。アロマセラピーのレッスンを受講した私たちの多くがヨーロッパだと思っていましたが、実際はインドなのだそうです。アロマセラピーは、花、香草などの香りをかいでストレスを軽減し、心身の健康を図る芳香療法です。香りの元であるオイルは花やハーブ、木、果物などの精油で、それぞれ異なる効能が期待できます。使い方や処方も様々ですが今回はバスソルト作りです。3種類のオイルを調合し、香りとお効能を自分好みに近づけます。私はローズ、カモミール、サンダルウッドのオイルを選び、これで眼精疲労、乾燥肌、安眠などの対策は万全のはずです。

西洋医学に依存しがちな今、自然療法によって心身の状態を整えること、またその方法自体が大変健康的です。何よりも、香りを選別し調和させる過程、出来上がり、効果を楽しめる、などと良い香りのする湯船につかりながらあれこれと思い返し、ひとしきりリラックスしています。

Design a T-shirt 橋本麻衣子

I chose "Design a T-shirt" class. First we chose T-shirts. But they were too big for us. I chose "S", but it was still too big. Then, we prepared paints, brushes and water. After preparation was finished, we started to paint. The teacher said "Simple designs are better." I like simple designs so I painted a picture using only red and black. My design was a door with two black footprints. We enjoyed painting.

3D-Cards 永田寿子

3D-Cards 作りはとて細かく、難しい作業でした。刷毛とボンドを使って枠に布をつける作業、キャラクターの描いてある紙4枚を切り抜き、特殊なボンドで重ねていく作業。簡単なように見えてどれも難しく、さっきまでみんな笑っていたのがうのように静まり返り、みんな真剣な顔つきになって一生懸命作業に取り組んでいました。完成したときは緊張がとけたせいか、みんな笑顔になり、それぞれ自分たちの作品を自慢し、見せ合いました。私は完成が一番遅くなってしまったし、また見本と大分違う作品になってしまいましたが、自分だけの作品が出来て大満足でした。3D-CARD のクラスではあまり英語で話す機会がありませんでしたが、みんなちょっとしたことに笑い、そして協力しあいながら取り組めて、とても楽しくクラスを受けられました。



ロバート・ルイス・スティーヴンソン

ロバート・ルイス・スティーヴンソン (Robert Louis Stevenson, 1850-94) は、イギリスの小説家・詩人です。彼はスコットランドの首都エディンバラ (Edinburgh) のハワード・プレイス (Howard Place) に生まれました。1867年にエディンバラ大学に入学して初めは工学を学びましたが、やがて法律に転じて弁護士の資格を得ました。しかし弁護士としての実務に携わることはなく、作家としてエッセイを出版するようになりました。

1883年に出版した冒険小説『宝島』(Treasure Island)の成功によって、一躍有名になりました。『宝島』は義理の息子と一緒に架空の島の地図を描き、『宝島』と名づけたその島にまつわる物語が発展したものです。続いて二重人格を扱った中編小説『ジークル博士とハイド氏』(The Strange Case of Dr Jekyll and Mr Hyde, 1886)によって彼の名声は更に高まりました。『ジークル博士とハイド氏』は18世紀にエディンバラに実在した人物から創作のヒントを得たとされています。人間の心に潜む善と悪との葛藤を扱ったこの作品は約70回映画化されていますが、私もその中の幾つかを見えています。



ライターズ・ミュージアム

ローンマーケット (Lawnmarket) にあるライターズ・ミュージアム (Writers' Museum) にはスティーヴンソンの自筆原稿や彼が使った小さな手動の印刷機などが展示されています。この文学記念館にはスティーヴンソンの他にスコットランド出身の小説家サー・ウォルター・スコット (Sir Walter Scott, 1771-1832) と詩人ロバート・バーンズ (Robert Burns, 1759-96) の遺品も展示されています。私がエディンバラを訪れたのは、1998年9月でした。

1887年に南洋航海のためにイギリスを離れたスティーヴンソンはその後、故国に戻ることはありませんでした。南太平洋のサモア島 (Samoa) が気に入り、1891年には大邸宅を建ててそこに永住することにしました。1894年に脳出血のために44才で亡くなり、その地に埋葬されました。

聖書の英語

私の中のマモノ・悪魔、デーモンと “An Unknown God”

心理学者フロイトが指摘した “Subconsciousness” とはどんなところなのでしょう？ 使徒行録の17章23節で異国に出かけた聖パウロは道端で「見知らぬ神 ‘An Unknown God’」を見つけます。不慣れな外国に足を踏み入れる体験はちょうど宮崎駿の「神隠し」のような体験でしょうか。宮崎氏はマモノのたぐい、「魔女」「トロロ」「ものけ」などを「かわいい」「親しい」ものに描きます。聖書の「ヘビ」は一般的にはマモノ、嫌われモノですが、実は元来、天使のような存在です。ファラオの頭や、カナンの女神は常に蛇で飾られました。悪魔(ラテン語 daemon・ギリシア語 daimonion)も中世ではマモノですが、元々は神の導きや力。ソクラテスは自分に呼びかける神の声を「ダイモンの呼び声」と言い(『岩波哲学事典』p899)、外でなく(内面の)「声」に従いました。「エウダイモニア(幸福)」とはダイモンに守られている意味です。聖パウロの‘An Unknown God’の箇所は「私パウロは自分の中に、マモノでない、実は(イエスが‘父’とか‘アッパ’<お父ちゃん>と呼ぶ)優しい方を知っているヨ」という意味でしょう。親しい方は「彼方(カナタ、アナタ)さま」(vous, Sie)でなく、最も緊密な方(Du, tu)。旅に出る「青い鳥」の話も、幸福は(遠方でなく)ごく身近なものです。「外」のマモノは目につきませんが、慣れた「内面」は見えません。が、実は自分の内に「デーモン」(すてきなマモノ)があるのです！「いつでも何度でも」の終局も「海の向こうにはもう探さない、輝くものはここに、わたしの中に見つけられたから」の結論です。

Student life in UK



山田梨絵 さん

This time our interview is with Rie Yamada who, after graduating from Caritas in 2001, went to Liverpool Hope University College in the UK to study English and then transferred to Liverpool Community College to take a course in Care.

Q: Why did you decide to do Care?

A: I like doing things for people and I would be very grateful if I could be helpful to people. I realise that the number of elderly is increasing and more and more people need assistance in their daily life. Also I prefer older people and adults to children. I would like to share my time with them.

Q: What kind of classes did you need to take in Liverpool?

A: English Language Course to improve English, otherwise it is too hard to follow the classes in college. Also, people who have work experience in care are preferred in applying for the course. In my case, I had attended only English language study for international students before I started college.

Q: Were there many other foreign students?

A: Not at all. A few Irish students and others were all British (local residents).

Q: We hear you were top of your graduating class and have been offered a job in Liverpool. Congratulations! What will your job entail?

A: General care for adults and the elderly. For example, using a hoist to transfer people (clients) who cannot move and walk by themselves, feeding, personal hygiene (nail care, oral care, hair care, shaving etc), assisting with toilet/bath, dressing/undressing, bed-making, recording clients' care plan, recording clients' in/output fluid.

Q: What did you enjoy most about your studies?

A: The First Aid course in college and working on placement from college at a residential care home.

Q: Changing the subject, how do you spend your free time?

A: Meeting my friends whom I met in the English language course at Liverpool Hope. Chatting on the Internet with my friends in Japan.

Q: Many students would like to visit Liverpool, what places do you

A: recommend there? The Beatles Museum, The Beatles' sites such as John Lennon's house, Paul McCartney's house, Penny Lane, Strawberry Fields etc. Liverpool Football Club in Anfield.

Q: Do you miss Japan?

A: I seldom miss Japan because I very often contact my friends and family by phone, email and on-line chat. Because of the recent advances in communication, I can easily contact people who live far and know what is happening in Japan.

Q: And finally, what are your long-term plans or dreams?

A: I am now planning to work in Liverpool for at least one or two years as a care assistant, then I would like to go back to Japan and find a full-time/permanent job in Tokyo as a career. I'm also thinking of getting a qualification in Care Management for my future career in Japan.

Thank you, Rie. Good luck in your new job and in your future career.

先生が学生だった頃



山澤浩司 先生

このコーナーでは、カリタス女子短大の先生方がどのような学生時代を送ったのか、学生によるインタビュー形式でお届けします。第18回目のゲストは、コミュニケーション文化専攻の山澤浩司先生です。インタビュアーは1年生の北田萌水さんです。

Q: 大学では何を専攻されていましたか？

A: 数学専攻です。偏微分方程式について研究をしていました。

Q: 数学を学び、将来は何になろうとお考えでしたか？

A: 数学はある意味心理の追求でとても美的なものだと私は捉えています。ただそこにとっても魅力を感じ数学を学んでいたのも、何かになろうという思いは特にありませんでした。数学者には意外とロマンチストが多いんですよ。

Q: 英語圏の学生と先生の学生時代を比べると、どのような違いがあるとお考えですか？

A: 時代背景が大きく変化しているので比較はしにくいのですが、私が学生だった頃は自分が興味のあることに一心に取り組み、勉強そのものの楽しさを味わうことができました。今は不況で、自分にとってプラスかマイナスか就職に有利かということを考えながら学ぶ傾向にあると思います。学ぶ楽しさということを忘れないで、それを大切にしたいって欲しいと思います。

Q: 数学と英語は対照的ですが、カリタス女子短期大学の教員になり、英語について何か影響を受けたことはありますか？

A: 数学の専門的な分野の英語に関しては問題ないのですが、一般的な英語には興味がありませんでした。でも、この大学の教員になって、国際会議等に出る様になり英語を使う機会が増え、学生たちを見ていても、今では必要不可欠なものだと実感するようになりました。

Q: 先生はスポーツに長けていらっしゃるとお伺いしたのですが、大学では何のスポーツをしていらっしゃったのですか？

A: 大学では野球をしていました。関東大会ベスト16に入った経験がありません。今は水泳をしています。

Q: 最後に何か学生にメッセージをお願いします。

A: 勉強でも、遊びでも、人付き合いでも、自分が楽しいと思えることに一所懸命に取り組んで下さい。

太平洋を越えた人と文化

英語・英語圏文化専攻 教員
北脇 実千代



先日、アメリカのファースト・フード店のマクドナルドが、50周年の記念式典を行いました。現在は世界119か国に3万店以上のお店があるマクドナルドですが、始まりはアメリカのカリフォルニア州です。1940年、ドライブイン・レストランを経営していたマクドナルド兄弟、リチャード(ディック)とモリス(マック)が、人手不足解消のために、それまで25品目あったメニューを、ハンバーガーを中心とした9品目まで絞りました。そして、調理にも流れ作業を取り入れると同時に、使い捨ての紙コップなどを利用することによって客にセルフ・サービスも求めたのです。これが、マクドナルドの原点であり、いわゆる「ファースト・フード」の始まりともいわれています。

マクドナルド兄弟が始めたこの経営方法により、人件費が減り、ハンバーガーは格安の値段で売られて大ヒットしました。その売れ具合に興味を抱いて、経営に参加したのが事業家のレイ・クロックです。以後、彼を中心として事業の拡大を目指しました。そして今から50年前の1955年4月15日、イリノイ州デス・プレインにマクドナルド1号店を開き、これを皮切りに全米に店舗を出していったのです。チェーン・レストランですから、味やサービスの画一化は重要でした。マクドナルドの場合は、企業内に「ハンバーガー大学」と称するものを設立して、従業員の研修に努めたことで有名です。

このマクドナルドのハンバーガーが太平洋を越えて日本にやってきたのは、1971年です。日本の1号店は銀座三越の1階でした。翌年には、関西にもオープンし、その後順調に日本全国へと広がっていきます。1977年には、日本初のドライブスルーも東京の杉並区で導入されました。現在、約3800店舗近くもあり、アメリカと同様、「ハンバーガー大学」も設けられて味やサービスも画一化されています。また、アメリカのメニューにしたがう一方で、日本独自のメニューも加えていきました。1984年に始まった、てりやきマックバーガーが初めてのオリジナル・メニューです。これは、その国にあったメニューを開発するという点で、ヨーロッパや他のアジアの国々のマクドナルドにも影響を与えました。

世界各国に広がっていったマクドナルドですが、その栄養価については疑問視されています。去年は、マクドナルドを1日3食1か月間食べ続けたらどうなるかという実験をしたドキュメンタリー映画「スーパーサイズ・ミー」も話題になりました。また、「スロー・フード」が注目され、土地土地のものを大切にゆっくりと食すことが見直されている現在、マクドナルドを始めとしたファースト・フードは岐路に立たされているともいえるでしょう。

Cool Web Site

英語・英語圏文化専攻 教員
前田 隆子

今回紹介するホームページは、「電子辞書使いこなし術！」です。(http://www.eigotown.com/p_news/seiko/index.shtml)

最近では、ほとんどの学生が電子辞書を使用していますが、単語を引く機能しか使っていないのではないのでしょうか。このHPを参考に、もっと使いこなしてみたいか？

インターネットアドレス：“電子辞書 使いこなし術！”

http://www.eigotown.com/p_news/seiko/index.shtml

Kaleidoscope 第18号はいかがでしたか？ 皆さまのご意見・ご希望・ご質問など、お気づきの点を maeda@caritas.ac.jp までお寄せください。

2005年 7月10日発行

発行責任者：北川宣子

編集協力：東京工科大学C S学部 塙 竜太郎

カリタス女子短期大学

Caritas Junior College

〒225-0011

横浜市青葉区あざみ野 2-29-1

Tel:045-901-5133

Fax:045-901-5066

URL: <http://www.caritas.ac.jp/english>